



INFORMATION-TECHNOLOGY PROMOTION AGENCY, JAPAN

ITスキル標準の今後の方針

2007年10月30日

独立行政法人 情報処理推進機構
IT人材育成本部 ITスキル標準センター

アジェンダ

- ・ ITスキル標準の現状
- ・ 産構審報告書
「高度IT人材の育成をめざして」の概要
- ・ 情報処理技術者試験 新試験制度の概要
- ・ ITスキル標準の改訂方針
- ・ まとめ



INFORMATION-TECHNOLOGY PROMOTION AGENCY, JAPAN

ITスキル標準の現状

ITスキル標準の経緯

		組織	成果物	プロフェッショナル コミュニティ
2001年		<夏> タスクフォース検討開始		
2002年	普及の時代	<5月> ITスキルスタンダード協議会	<12月> ITスキル標準	
2003年		<7月> ITスキル標準センター設立	<7月> ITスキル標準V1.1 <7月> 研修ロードマップ(以下の6職種) (SALES, CONS, ITA, PM, ITS, APS)	<12月> ITアーキテクト
2004年	浸透の時代	<11月> ITプロフェッショナル育成協議会	<1月> ITスキル標準概説書 <8月> 研修ロードマップ(5職種) <8月> 研修ロードマップ(6職種) 改訂 <10月> ITスキル標準ガイドブック	<5月> プロジェクトマネジメント アプリケーションスペシャリスト
2005年		<10月> ITスキル標準V2改訂委員会	<12月> ITスキル標準経営者向け概説書	<5月> コンサルタント ITスペシャリスト オペレーション
2006年	活用の時代	<10月> ITスキル標準V2 改訂委員会	<4月> ITスキル標準V2 <10月> ITスキル標準V2 2006	<10月> ITサービスマネジメント ← オペレーションを改称
2007年		<9月> ITスキル標準 改訂委員会	<4月> ITプロフェッショナルへのいざない <6月> 研修ガイドライン <6月> 社内プロフェッショナル認定の手引き	<9月> エデュケーション

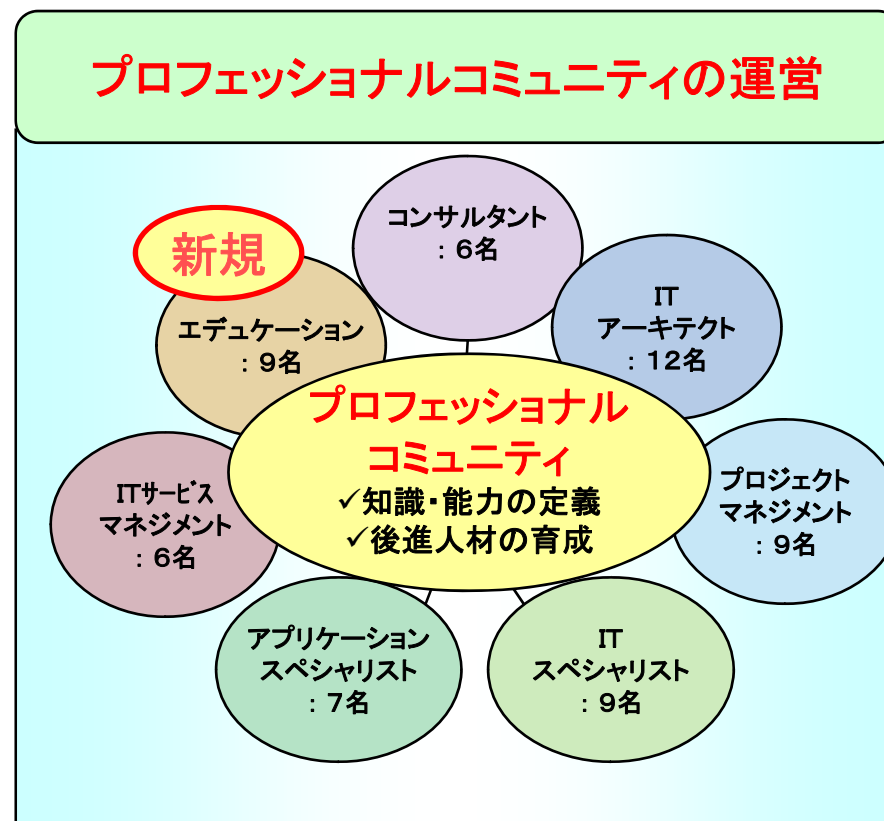
ITスキル標準の成果物

期間:2006/4/1~2007/9/30

No	カテゴリー	タイトル1	タイトル2	提供方法	ページ数	ダウンロード数	冊子発行数	
1	ITスキル標準本体	概要編	概要部	Web	2,192	381,696	-	
		キャリア編	各職種別 職種の定義と達成度指標	Web				
		スキル編	概要部	Web				
			スキルディクショナリ	Web				
			各職種別 スキル領域とスキル熟達度・知識項目	Web				
			各職種別 研修ロードマップ(本体)	Web				
			各職種別 研修ロードマップ(マトリックス)	Web				
英語版ドラフト	Web	784	93	-				
2								
3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40	ITスキル標準本体	概要編	ITスキル標準概説書	冊子	95	-	10,000
キャリア編			経営者向けITスキル標準概説書	冊子	75	-	3,250	
スキル編			ITスキル標準紹介動画	Web	-	847	-	
スキル編			ITスキル標準ポケットハンドブック	冊子	2	-	17,200	
スキル編			ITアーキテクト解説書ダイジェスト	冊子	2	-	4,300	
スキル編			アプリケーションスペシャリスト スキルアップ・クイックガイド	冊子	2	-	7,000	
スキル編			研修ガイドライン	Web	173	1,469	-	
スキル編			社内プロフェッショナル認定の手引き	Web	118	1,643	-	
スキル編			ITプロフェッショナル育成ハンドブック	冊子	159	-	2,000	
スキル編			ITスキル標準センター紹介	冊子	6	-	10,000	
スキル編			2006年度情報化月間鼎談(鼎談1)	冊子	6	-	10,000	
スキル編	2007年度大阪フォーラム鼎談(鼎談2)	冊子	6	-	10,000			
17	調査報告	その他の活動	ITスキル標準の今後の運営活動の方向性に関する報告書(H17.4.8)	Web	10	1,832	-	
18			情報サービス産業のビジネス戦略と人材育成への展開	Web	26	3,826	-	
19			ITスキル標準センター企画 パネルディスカッション 「ITプロフェッショナル育成とITスキル標準の活用について考える」	Web	11	1,629	-	
20			「ITスキル標準と研修ロードマップの活用状況調査」アンケート結果	Web	7	1,739	-	
21	プロフェッショナル コミュニティ	ITアーキテクト委員会	「ITスキル標準の活用動向に関する調査」結果(H18.7.31)	Web	28	1,801	-	
22			ITスキル標準改善提案報告書	Web	26	2,438	-	
23			ITアーキテクト育成ハンドブック	Web	45	6,715	-	
24			ITアーキテクトの責務と活動プロセスに関する研究	Web	20	290	-	
25			参照アーキテクト調査報告	Web	63	7,551	-	
26			ITアーキテクト解説書ダイジェスト	Web	2	1,443	-	
27			ITアーキテクトチャタモデル・セマンティクス解説書	Web	50	1,861	-	
28			ITスキル標準改善提案報告書	Web	39	2,266	-	
29			アプリケーションスペシャリスト育成ハンドブック	Web	62	3,904	-	
30			アプリケーションスペシャリスト評価ガイドライン	Web	59	1,584	-	
31			全プロセスの対応表	Web	3	100	-	
32	情報システム開発業務プロセスの対応表	Web	4	85	-			
33	プロジェクトマネジメント委員会	ITスキル標準改善提案報告書	Web	98	4,450	-		
34		PM育成ハンドブック	Web	128	9,376	-		
35		ITスキル標準改善提案報告書	Web	80	1,246	-		
36	コンサルタント委員会	コンサルタント育成ハンドブック	Web	41	1,859	-		
37		ITスペシャリストITスキル標準改善提案報告書	Web	31	1,693	-		
38	ITサービスマネジメント委員会	ITスペシャリスト育成ハンドブック	Web	196	2,271	-		
39		職種:オペレーションに関する提言 育成ハンドブック	Web	60	1,167	-		
40	映像 その他	ITスキル標準普及 イベント資料など	ITスキル標準普及・活用	DVD	-	-	1,000	
41			Web	-	104,456	-		
				合計	4,781	551,782	74,750	

プロフェッショナルコミュニティの活動

- プロフェッショナルコミュニティの意義
 - 第一線で活躍している高度なスキルを持ったハイレベルのIT人材の意見を活用
 - ハイレベルなIT人材による指導, 後進の育成
 - プロフェッショナルの相互情報共有
- 活動と成果
 - 後進人材育成のためのガイドライン(育成ハンドブック)
 - ITスキル標準/研修ロードマップの内容のレビューや改善
 - ハイレベルなIT人材の育成要素に関する助言など
 - その他目的を達成するために必要な活動



ITスキル標準の職種に基づいて
コミュニティを設置



INFORMATION-TECHNOLOGY PROMOTION AGENCY, JAPAN

産構審報告書 「高度IT人材の育成をめざして」の概要

産業構造審議会情報経済分科会 情報サービス・ソフトウェア小委員会
人材育成ワーキンググループ報告書
「高度IT人材の育成をめざして」(経済産業省資料より)

URL : <http://www.meti.go.jp/press/20070720006/20070720006.html>

2. IT人材を巡る構造変化と目指すべき人材像

～3つの構造変化を踏まえたIT人材育成戦略構築の必要性～

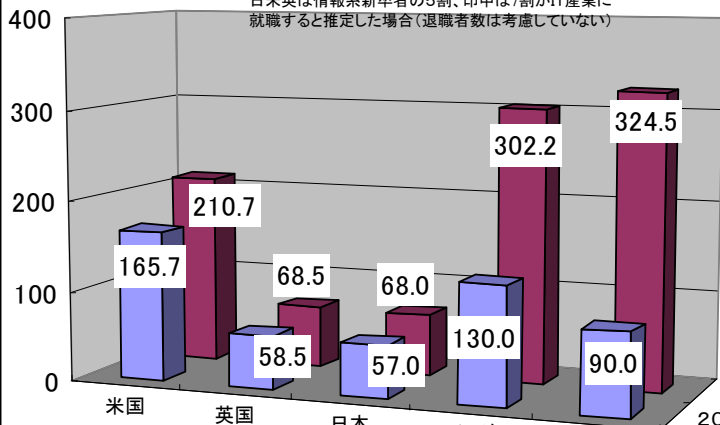
ITを巡る3つの構造変化

- ① ITの企業価値の中核への浸透
- ② IT開発・提供の基本構造の変貌
- ③ グローバルでシームレスなIT供給を踏まえ、中長期的な観点からIT人材についての将来展望と戦略が必要

世界のIT市場の現状と今後の見込み

- 中国、インド等のIT市場規模が拡大する中で、日本市場は世界2位の市場からローカル市場へ。
- 高度IT人材の規模は10年後にはインド及び中国が世界を圧倒。

2015年の高度IT人材規模(万人)
日米英は情報系新卒者の5割、印中は7割がIT産業に就職すると推定した場合(退職者数は考慮していない)



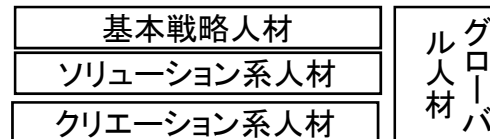
(注)経済産業省推計

我が国が目指すべき高度IT人材類型(全体像)

○今後のIT人材像

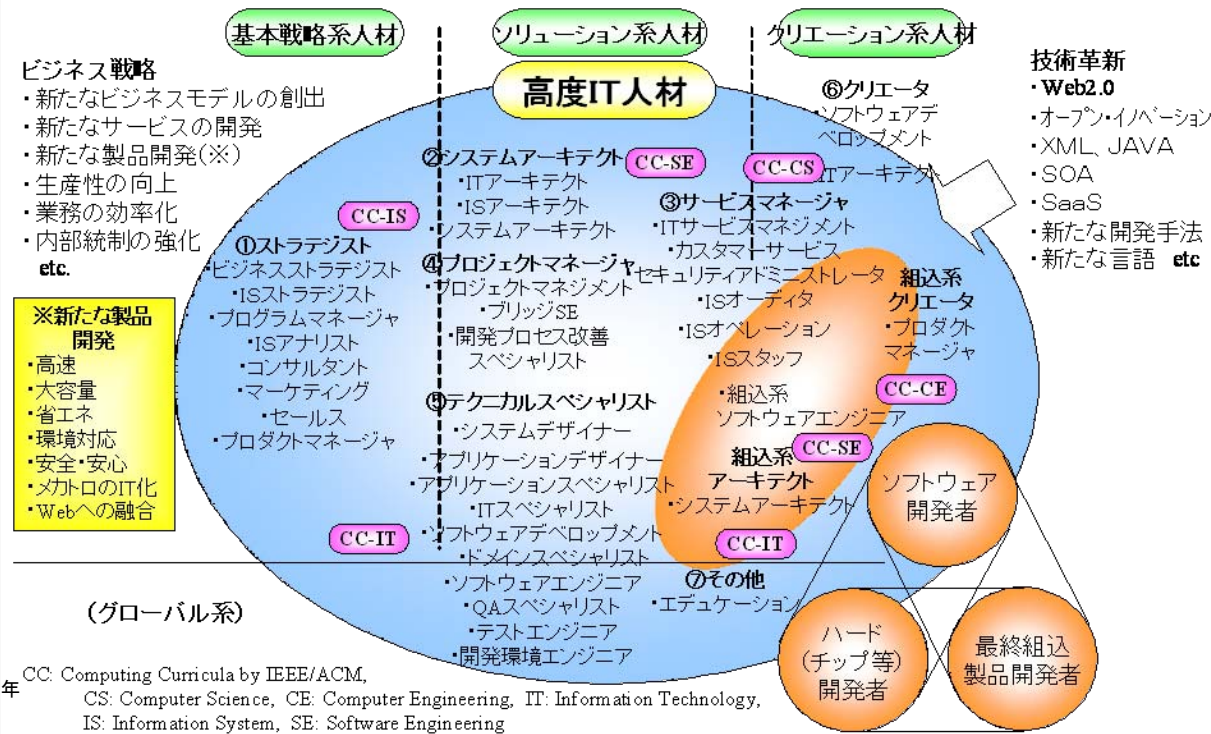
・構造変化に対応し、変革をリードできる人材が必要

- ・ITと経営の融合
- ・ITアーキテクチャの変貌
- ・グローバル標準化



基本戦略を支えるためのIT ←

→ 技術革新を創造



3. 高度IT人材育成に向けた具体的施策

1. 高度IT人材の具体像(キャリアとスキル)の可視化、共有化

- めざすべき高度IT人材像を、①基本戦略系、②ソリューション系、③ クリエーション系に区分し、必要なスキルを明確化。
- 人材キャリアを7段階に区分し、ミドルレベル(3段階)までは、情報処理技術者試験の可否によりレベルを判定。

2. 実践的かつ先端的な人材育成手法の確立、実践

- ソフトウェア工学手法、モデリング手法等、実践的かつ先端的なソフトウェア開発・管理手法を確立、普及。
- 大学等において、ダブル・メジャー教育(文系 or 理系 + IT)を推進
- 創造性に富んだ優れた人材(天才クリエイター)を早期発掘するとともに、その起業を支援。

3. 客観性の高い人材評価メカニズムの構築

- 情報処理技術者試験と人材スキル標準の統合により、客観的な人材評価メカニズムを構築。
- 情報処理技術者試験において、広く社会人一般に求められる基礎的な知識を問うエントリー試験を創設。

4. 我が国発の人材育成・評価システムの国際展開

- アジア統一IT試験の拡充強化を図るとともに、アジア諸国におけるIT人材育成を支援。
- プロジェクト・マネジメント手法やソフトウェア技術者認証方法、組込み人材育成手法の国際標準化を推進。

5. 高度IT人材育成のための推進体制づくり

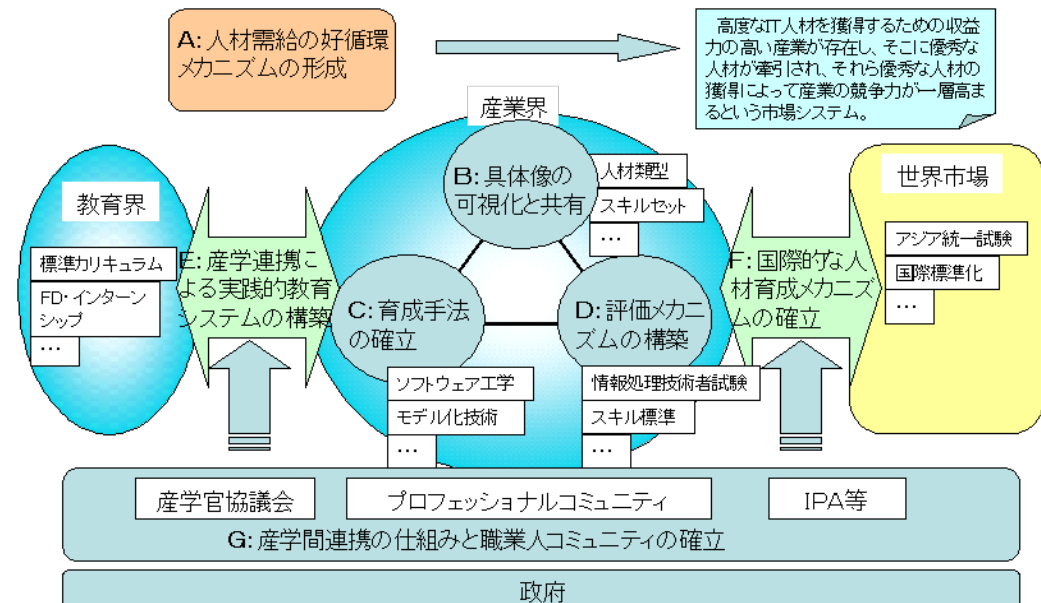
- 高度IT人材育成のロードマップと行動計画の策定、高度IT人材育成手法の開発を行う産学官協議会を設置。
- ストラテジストやアーキテクトなど、各専門分野の高度IT人材による自立的なコミュニティ活動を支援。

<高度IT人材育成のための推進体制>

次の事項を産学協議会で議論

- ✓ 新人教育やリカレント教育のベストプラクティス
- ✓ 民間研修の活用方策
- ✓ ファカルティ・ディベロップメントの支援方策
- ✓ 産業界と教育界との人材交流方策
- ✓ スキル標準に示された業務実施上の知識・スキル体系と、情報教育専門カリキュラムに示された知識・スキル体系との対応付け
- ✓ 初等中等教育段階におけるモデル的な人材育成プログラム

<高度IT人材育成プラットフォーム>





4. 高度IT人材の具体像の可視化、共有化

<共通キャリア・スキルフレームワーク(案)>

※今後、以下の方向性を踏まえ、資質、技能等を含めて詳細に検討を進める

<現行スキル標準と新たな情報処理技術者試験の体系>

大分類	中分類	小分類項目例	基本戦略系					ソリューション系														
			①ストラテジスト	②システムアーキテクト	③サービスマネージャ	④プロジェクトマネージャ	⑤テクニカルスペシャリスト	①ストラテジスト	②システムアーキテクト	③サービスマネージャ	④プロジェクトマネージャ	⑤テクニカルスペシャリスト										
算知	情報科学	1 情報に関する理論	情報理論、離散数学、確率・統計、待ち行列、並び、データ表現など	×	△	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		2 アルゴリズムとプログラミング	アルゴリズムとデータ構造、プログラミング基礎、オブジェクト指向、プログラミング言語、マークアップ言語など																			
		コンピュータ	3 コンピュータ構成要素	CPU、メモリ、トランザクション処理システム、デバイスなど																		
			4 システム構成要素	システム構成方式、システムの性能、システムの信頼性・経済性など	△	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			5 ソフトウェア	OS、ミドルウェア、オープンソースソフトウェア、ファイルシステム、言語処理など																		
			6 ハードウェア	電気・電子回路、機械・制御、論理回路など																		
			7 ヒューマンインターフェース	ユーザビリティ、ユーザインタフェースデザイン、バーチャルリアリティ、3Dグラフィックスなど																		
			8 マルチメディア	音声処理、静止画処理、動画処理、圧縮・伸長、メディア転送など																		
		技術要素	9 データベース	データベース設計、データ操作、トランザクション処理など	△	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			10 ネットワーク	無線・有線通信、ネットワークアーキテクチャ、サーバ、ルータ、LAN、WAN、イーサネット、IPなど																		
	11 セキュリティ		暗号、セキュリティ基礎・管理、技術評価、対策、攻撃、電子署名など																			
	12 ソフトウェア開発		ソフトウェア要求定義、ソフトウェア開発方法、ソフトウェア開発プロセス、コード作成、統合、テスト、品質、開発環境など																			
	マネジメント	13 プロジェクトマネジメント	経営マネジメント、スコープマネジメント、品質マネジメント、コストマネジメント、タイムマネジメント、人的資源マネジメント、コミュニケーションマネジメント、リスクマネジメントなど	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		14 調達マネジメント	提案依頼書、見積書、請求書、選定基準、EVM、購入、受入、検収、移行など																			
	システム	15 サービスマネジメント	サービスレベル管理、インシデント管理、構成管理、変更管理、リソース管理、キャパシティ管理、情報資産管理、セキュリティ管理、利用など	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		16 システム監査	システム監査、情報セキュリティ監査、および監査技法、ITガバナンス、内閣制、事業継続など																			
	戦略	17 システム設計	モデリング、システム設計、要求定義、方式設計など	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		18 システム戦略	IT戦略、投資対効果、エンタープライズアーキテクチャ、ビジネスアーキテクチャ、SOAなど																			
	経営	19 ビジネスインダストリー/組込製品ドメイン	ビジネス循環(金融、物流、公共等)、組込製品(携帯、自動車、家電等)など	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
		20 経営戦略マネジメント	経営管理、SCM、CRM、BPRなど																			
企業	21 企業活動	組織論、意思決定論、企業会計、企業財務など	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
	22 法務	知的財産権、契約、法律、技術者倫理、標準化など																				
資質技能	9 パーソナリティ	コミュニケーション、プレゼンテーション、ネゴシエーション、リーディング、メンタリングなど	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	24 経験の原簿により評価されるスキル	課題発見能力、抽象化能力、課題解決能力	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		

人材類型	人材像	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7
		レベル1~3は試験で判定			試験と業務経験等で判定	業務経験及びプロフェッショナルによる審査等で判定		
基本戦略系	①ストラテジスト	エントリー試験(仮称)	基本試験(仮称)	ミドル試験(仮称)	ストラテジスト試験	業務履歴の確認	業務履歴確認+プロフェッショナルによる審査等	業務履歴確認+プロフェッショナルによる審査等
	②システムアーキテクト				システムアーキテクト試験			
	③サービスマネージャ				サービスマネージャ試験			
	④プロジェクトマネージャ				プロジェクトマネージャ試験			
	⑤テクニカルスペシャリスト				テクニカルスペシャリスト試験			
クリエイション系	⑥クリエイター	クリエイターは試験での対応は想定されない。						

現行のスキル標準(34職種)	スキル標準
IT/ITスキル標準(11)	UI
ET組込みスキル標準(10)	UI
UI情報システムユーザスキル標準(3)	UI
1 ビジネスストラテジスト	UI
2 ISストラテジスト	UI
3 プログラムマネージャ	UI
4 ISアナリスト	UI
5 マーケティング	IT
6 セールス	IT
7 コンサルタント	IT
8 プロダクトマネージャ	ET
9 ISアーキテクト	UI
10 ITアーキテクト	IT
11 システムアーキテクト	ET
12 ISオペレーション	UI
13 ISアドミニストレータ	UI
14 セキュリティアドミニストレータ	UI
15 ISスタッフ	UI
16 ISオーデイタ	UI
17 ITサービスマネージメント	IT
18 カスタマサービス	IT
19 プロジェクトマネージャ	UI
20 プロジェクトマネージャ	IT
21 プロジェクトマネージャ	ET
22 プリッジSE	ET
23 開発プロセス改善スペシャリスト	ET
24 システムデザイナー	UI
25 アプリケーションデザイナー	UI
26 アプリケーションスペシャリスト	IT
27 ITスペシャリスト	IT
28 ソフトウェアデベロッパー	IT
29 ドメインスペシャリスト	ET
30 ソフトウェアエンジニア	ET
31 QAスペシャリスト	ET
32 テストエンジニア	ET
33 開発環境エンジニア	ET

34 エデュケーション	IT	その他
ITスキル標準のエデュケーションが該当		

※1 情報セキュリティ試験とシステム監査試験については、人材像としてはサービスマネージャ又はテクニカルスペシャリストに含まれるが、試験としては引き続き存続する。
 ※2 アプリケーションの設計、構築については、新たな人材像において設計はシステムアーキテクトの一部、構築はテクニカルスペシャリストの一部として位置づけるが、試験としては、システムアーキテクト試験の中において、アプリケーションの設計から構築までを含むものとする。



INFORMATION-TECHNOLOGY PROMOTION AGENCY, JAPAN

情報処理技術者試験 新試験制度の概要

新試験制度審議委員会 ー中間報告書ー高度IT人材の道標
(IPA／情報処理技術者試験センター資料より)

URL: <http://www.jitec.jp/index.html>

■ 共通キャリア・スキルフレームワークに基づくレベル判定

(出典:「産業構造審議会人材育成ワーキンググループ報告書」5-4,「高度IT人材への道標」の4頁ご参照)

高度IT人材	スーパーハイ	レベル7	国内のハイエンドプレイヤーかつ世界で通用するプレイヤー	成果(実績)ベース ↓ 業務経験や面談等	プロ ミ 各企業で判断	情報処理技術者試験での対応はレベル4まで
		レベル6	国内のハイエンドプレイヤー			
	ハイ	レベル5	企業内のハイエンドプレイヤー	試験+業務経験により判断		
		レベル4	高度な知識・技能			
		レベル3	応用的知識・技能			
	ミドル	レベル2	基本的知識・技能	スキル(能力)ベース ↓ 試験の可否		
		レベル1	最低限求められる基礎知識			
エントリ				高度試験		
				ミドル試験		
				基礎試験		
				エントリ試験		

人材キャリアを7段階に区分。新情報処理技術者試験ではレベル1~4の一部までをカバー

- ◎レベル1から3までは, 新情報処理技術者試験の可否によりレベルを判定
- ◎レベル4は, 新情報処理技術者試験と業務経験等で判定

■ 高度IT人材の類型(2/2)

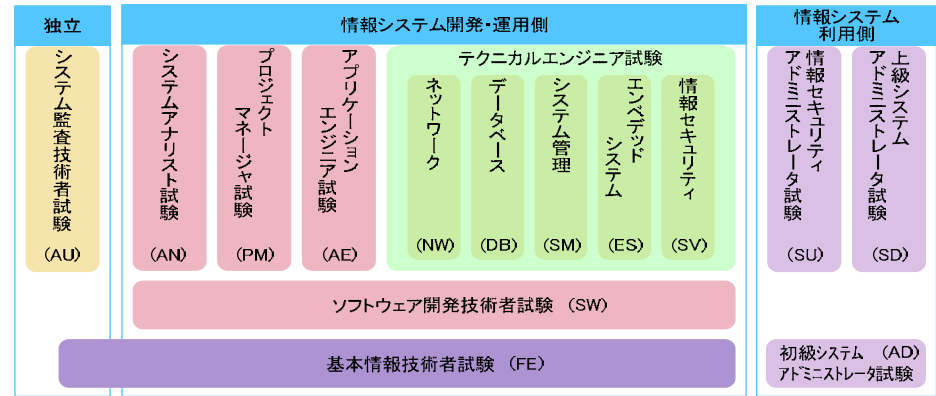
(出典:「産業構造審議会人材育成ワーキンググループ報告書」5-4,「高度IT人材への道標」の5頁ご参照)

人材像	人材類型	人材類型の説明	試験での対応
<p><基本戦略系人材> 各種課題のITによる解決のための基本戦略を立案</p>	①ストラテジスト	ITを活用したビジネス価値の増大をリードする。	対象
<p><ソリューション系人材> 情報システムの設計, 開発や, 信頼性・生産性の高い運用を総括</p>	②システムアーキテクト	ビジネス戦略に対して最適なシステムをデザインする。	
	③サービスマネージャ	継続的な高い信頼性を確保しつつ, システムを維持する。	
	④プロジェクトマネージャ	与えられた制約条件(品質, コスト, 納期等)下で, 信頼性の高いシステム構築を総括する。	
	⑤テクニカルスペシャリスト	データベースやネットワーク等の技術ドメインを実装する。	
<p><クリエイション系人材> 新しい要素技術を用いて社会・経済的なフロンティアを開拓</p>	⑥クリエイター	新たな要素技術の創造等により社会・経済にイノベーションをもたらす。	対象外
<p><その他></p>	⑦その他	ITスキル標準のエデュケーションが該当する。	

■ 新試験と現行試験の体系図



現行試験



新試験

レベル	情報システム／組み込みシステム								
	ベンダ系／ユーザ系								独立系
4	高度試験 ITストラテジスト試験 (ST)	システムアーキテクト試験 (SA)	プロジェクトマネージャ試験 (PM)	ネットワーク プロフェッショナル試験 (NP)	データベース プロフェッショナル試験 (DP)	組み込みシステム プロフェッショナル試験 (EP)	情報セキュリティ プロフェッショナル試験 (SP)	ITサービスマネージャ試験 (SM)	システム監査 プロフェッショナル試験 (AP)
3	応用情報技術者試験 (AI)								
2	基本情報技術者試験 (FE)								
1	エントリ試験 (ITパスポート試験) (IP)								

* 新試験の試験区分名称は仮称であり、経済産業省において決定される。



INFORMATION-TECHNOLOGY PROMOTION AGENCY, JAPAN

ITスキル標準の改訂方針

ITスキル標準改訂委員会

【委員会開催主旨】

ITスキル標準の改訂公開にあたり、改訂版の品質を高め、より使い易いものにするために、品質や公開資料としての妥当性についてレビュー、承認をいただく。

ITスキル標準改訂委員会

ITスキル標準改訂委員会	
第1回	ITSSを取り巻く状況の説明、改訂の趣旨説明、改訂方針の検討
第2回	改訂の方針の承認、レベル1～3についての議論、意見交換
第3回	改訂ドキュメントレビュー
第4回	公開版承認、レベル4以上についての議論
第5回	改訂ドキュメントレビュー
第6回	公開版承認、認定の手引きレビュー

委員	所属・タイトル
有賀 貞一【委員長】	株式会社CSKホールディングス 取締役
神沼 靖子	学術博士 情報システム学会 理事
五味 利明	富士通株式会社 インフラサービス事業本部 主席部長
嶋田 圭吾	株式会社クロスフォース 取締役副社長
島田 洋之	東京海上日動システムズ株式会社 常務取締役
杉浦 昌	日本電気株式会社 IT戦略部（セキュリティ技術センター）シニアマネージャー
杉山 健	アクセントチュア株式会社 官公庁本部 エグゼクティブ・パートナー
高橋 秀典	特定非営利活動法人 ITSSユーザー協会 専務理事
田原 幸朗	社団法人 情報サービス産業協会(JISA) 事務局次長 調査企画部長
角田 千晴	社団法人 日本情報システム・ユーザー協会(JUAS) 事業企画推進部長
橋爪 宗信	株式会社NTTデータ SIコンピテンシー本部 企画部長
平田 謙次	東洋大学社会学部社会心理学科 准教授 学術博士
村上 拓史	日本ユニシス株式会社 人材育成部 HR戦略推進室長

ITスキル標準の改訂方針

【背景】(ITスキル標準を取り巻く状況)

- ①プロフェッショナルコミュニティによる改善提案
 - ITスキル標準V2における職種別内容充実←IPCF(IPAX 2007)にて報告
 - 職種横断的な内容充実←現在も継続検討
- ②産構審人材育成WGの答申(産構審報告書*1)の施策具現化
 - 共通キャリア・スキルフレームワークとの整合化
 - 情報処理技術者試験との同期化

【改訂内容】

- **2007年10月:改訂方針通知**
 - ・ITスキル標準V3の改訂方針と改訂時期
 - ・ITスキル標準 V2 2007(2007年10月)の改訂はしない
- **2008年 3月:改訂版公開 ITスキル標準V3(仮称)**
 - ・レベル1~3の職種共通化と試験との一体的運用を前提とした内容の見直し
 - ・IPCF2007で公開されたプロコミ改善提言に基づく職種専門分野の見直し
- **2008年10月:改訂版公開 ITスキル標準V3 2008**
 - ・ITSSレベル4以上と共通キャリアスキルフレームワークとの整合化
(職種名の整合化、知識・技能(スキル)の整合化)

改訂のポイント

【改訂のポイント】

1. 産構審報告書の施策の具現化

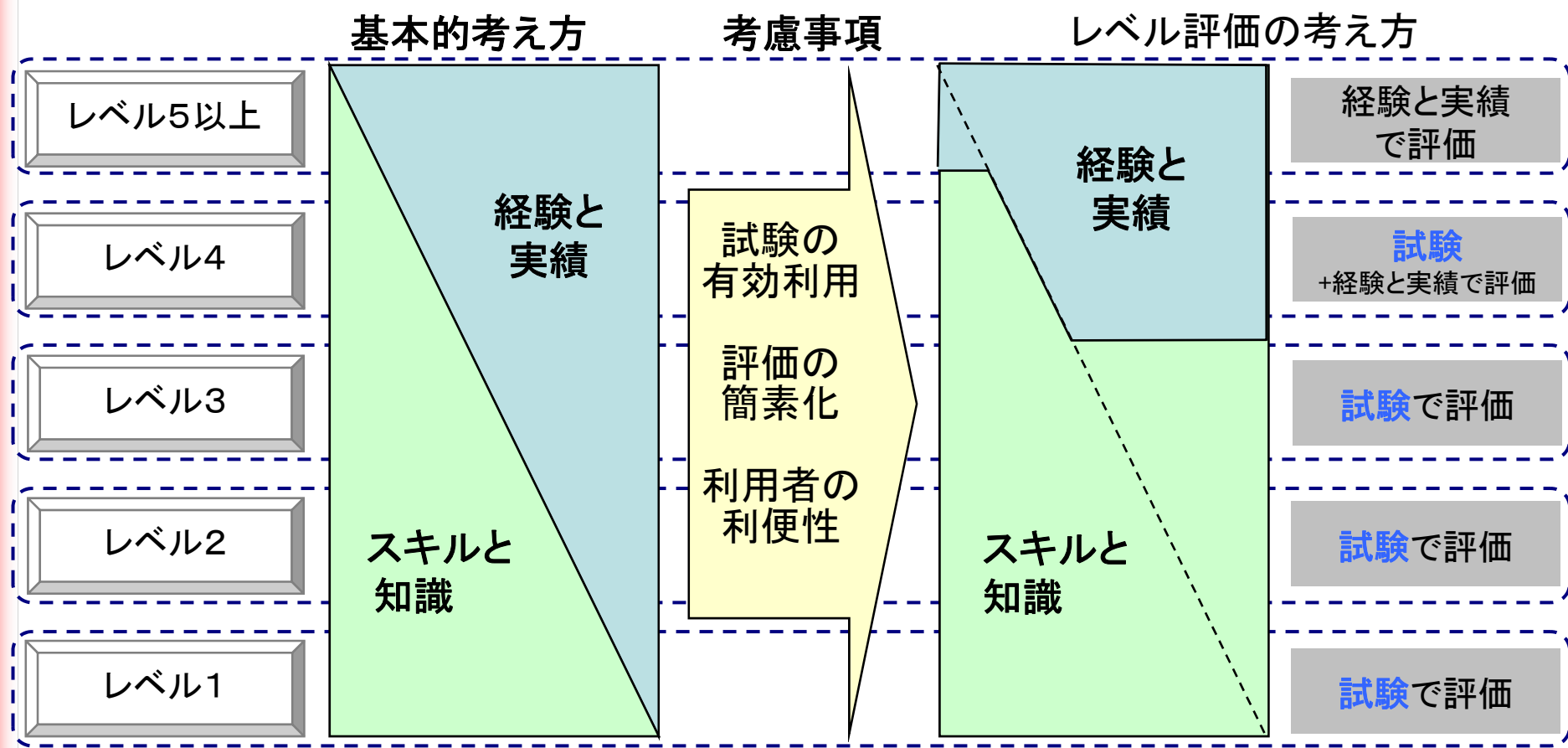
- ・産構審報告書及び情報処理技術者試験との整合化を図ります。
- ・レベル1～3は、基本的に情報処理技術者試験への合格をもってITスキル標準のレベルを評価します。

2. プロフェッショナルコミュニティによる改善提言への対応

- ・プロフェッショナルコミュニティによる平成18年度改善提案を受け、キャリアフレームワークの見直しを行います。

レベル評価の考え方

ITスキル標準での「スキルと知識」と「経験と実績」の関係から、レベル評価の考え方を述べる。
 基本的な考え方「専門性が高く、現場で実践できる人材を育成するためには、経験を通じた学習を基本とするが、下位レベルにおいては、体系的な知識の修得を促進する」に、試験の有効活用、評価の簡素化、利用者の利便性を考慮する。
 レベル評価の考え方として、レベル1～3では基本的に試験で評価、レベル4では試験および経験と実績で評価、レベル5以上は経験と実績で評価とする。



レベル評価に使用するITスキル標準のドキュメント

- ・レベル1～3は、基本的に試験の合格をもってITスキル標準のレベルを評価する。
- ・情報処理技術者試験と対応付けたスキル項目がレベル1～3のスキル熟達度に定義される。
- ・レベル4は、試験の合格と業務経験(達成度指標)をもとに評価する。

	達成度指標		スキル熟達度		
	ビジネス貢献	プロフェッショナル貢献	スキル領域		スキル熟達度
			職種共通	職種ごと	
レベル5 以上	職種ごと⇒実績評価	職種ごと⇒実績評価	—	—	—
レベル4	職種ごと⇒実績評価	職種ごと⇒実績評価	—	試験出題範囲	職種ごと⇒試験合格
レベル3	—	—	試験出題範囲	—	職種共通⇒試験合格
レベル2	—	—	試験出題範囲	—	職種共通⇒試験合格
レベル1	—	—	試験出題範囲	—	職種共通⇒試験合格



INFORMATION-TECHNOLOGY PROMOTION AGENCY, JAPAN

ITスキル標準V3改訂まとめ (2008年3月予定)

ITスキル標準V3改訂概要(2008年3月予定)

1. 産構審報告書の施策の具現化

- ・産構審報告書及び情報処理技術者試験との整合化を図ります。
- ・レベル1～3は、基本的に情報処理技術者試験への合格をもってITスキル標準のレベルを評価します。

2. プロフェッショナルコミュニティによる改善提言への対応

- ・プロフェッショナルコミュニティによる平成18年度改善提案を受け、キャリアフレームワークの見直しを行います。

職種	マーケティング	セールス	エンジニア	IT-IT	加法外 マシナリ	IT&システム	アプリケーション スペシャリスト	ソフトウェア プログラマー	加法サービス	ITサービス マシナリ	IT-IT	
専門分野	マーケティング セールス エンジニア IT-IT 加法外 マシナリ IT&システム アプリケーション スペシャリスト ソフトウェア プログラマー 加法サービス ITサービス マシナリ IT-IT	マーケティング セールス エンジニア IT-IT 加法外 マシナリ IT&システム アプリケーション スペシャリスト ソフトウェア プログラマー 加法サービス ITサービス マシナリ IT-IT	マーケティング セールス エンジニア IT-IT 加法外 マシナリ IT&システム アプリケーション スペシャリスト ソフトウェア プログラマー 加法サービス ITサービス マシナリ IT-IT	マーケティング セールス エンジニア IT-IT 加法外 マシナリ IT&システム アプリケーション スペシャリスト ソフトウェア プログラマー 加法サービス ITサービス マシナリ IT-IT	マーケティング セールス エンジニア IT-IT 加法外 マシナリ IT&システム アプリケーション スペシャリスト ソフトウェア プログラマー 加法サービス ITサービス マシナリ IT-IT	マーケティング セールス エンジニア IT-IT 加法外 マシナリ IT&システム アプリケーション スペシャリスト ソフトウェア プログラマー 加法サービス ITサービス マシナリ IT-IT	マーケティング セールス エンジニア IT-IT 加法外 マシナリ IT&システム アプリケーション スペシャリスト ソフトウェア プログラマー 加法サービス ITサービス マシナリ IT-IT	マーケティング セールス エンジニア IT-IT 加法外 マシナリ IT&システム アプリケーション スペシャリスト ソフトウェア プログラマー 加法サービス ITサービス マシナリ IT-IT	マーケティング セールス エンジニア IT-IT 加法外 マシナリ IT&システム アプリケーション スペシャリスト ソフトウェア プログラマー 加法サービス ITサービス マシナリ IT-IT	マーケティング セールス エンジニア IT-IT 加法外 マシナリ IT&システム アプリケーション スペシャリスト ソフトウェア プログラマー 加法サービス ITサービス マシナリ IT-IT	マーケティング セールス エンジニア IT-IT 加法外 マシナリ IT&システム アプリケーション スペシャリスト ソフトウェア プログラマー 加法サービス ITサービス マシナリ IT-IT	マーケティング セールス エンジニア IT-IT 加法外 マシナリ IT&システム アプリケーション スペシャリスト ソフトウェア プログラマー 加法サービス ITサービス マシナリ IT-IT
高度IT人材	レベル7	レベル7	レベル7	レベル7	レベル7	レベル7	レベル7	レベル7	レベル7	レベル7	レベル7	
	レベル6	レベル6	レベル6	レベル6	レベル6	レベル6	レベル6	レベル6	レベル6	レベル6	レベル6	
	レベル5	レベル5	レベル5	レベル5	レベル5	レベル5	レベル5	レベル5	レベル5	レベル5	レベル5	
	レベル4	レベル4	レベル4	レベル4	レベル4	レベル4	レベル4	レベル4	レベル4	レベル4	レベル4	
ミドル	レベル3	レベル3	レベル3	レベル3	レベル3	レベル3	レベル3	レベル3	レベル3	レベル3	レベル3	
	レベル2	レベル2	レベル2	レベル2	レベル2	レベル2	レベル2	レベル2	レベル2	レベル2	レベル2	
エントリー	レベル1	レベル1	レベル1	レベル1	レベル1	レベル1	レベル1	レベル1	レベル1	レベル1	レベル1	

①専門分野
の再構成

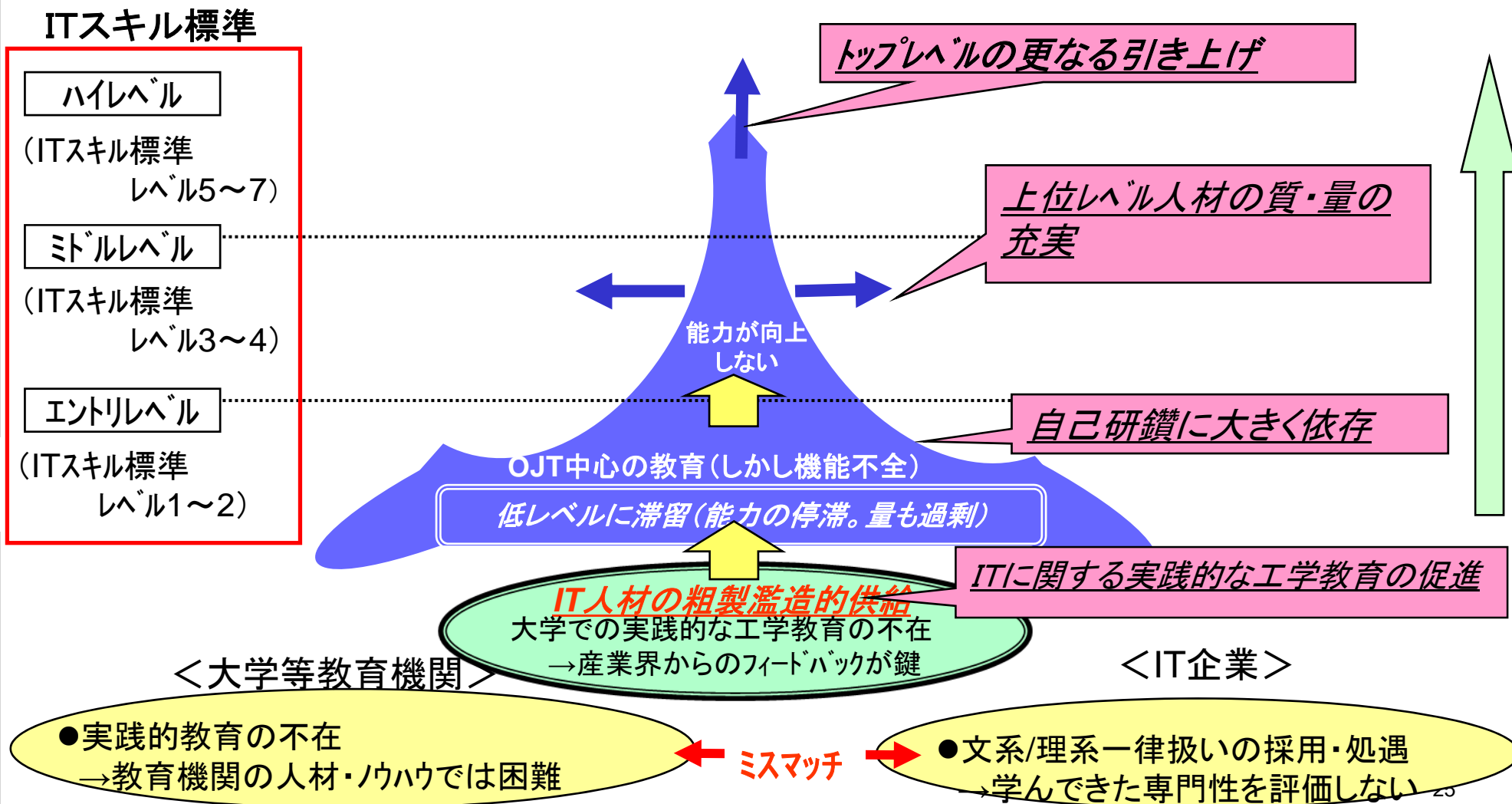
②専門分野
の再構成

③専門分野「業務パッ
ケージ」の見直し

④レベル1～3の共通スキル項目の定義

職種	改訂内容
コンサルタント	<ul style="list-style-type: none"> ・専門分野「BT」「IT」を見直し、「インダストリ」「ビジネスファンクション」へ再構成 ・専門分野「パッケージ適用」廃止
ITスペシャリスト	<ul style="list-style-type: none"> ・専門分野「分散コンピューティング」の廃止 ・専門分野「アプリケーション共通基盤」の新設
アプリケーションスペシャリスト	<ul style="list-style-type: none"> ・専門分野「業務パッケージ」の内容見直し

現状の人材構造と今後の方向性



おわりに

- 最新情報はITスキル標準センターホームページに掲載
URL <http://www.ipa.go.jp/jinzai/itss/index.html>
- ITスキル標準V2 2006ダウンロードページ
URL http://www.ipa.go.jp/jinzai/itss/download_V2_2006.html

ご清聴ありがとうございました。